

お客様 の声

2026年4月

今回のお客様

医療法人鉄蕉会 亀田総合病院
医療技術部 画像診断室様

【配信元】

メディエ株式会社

〒104-0042

東京都中央区入船三丁目 10-9 新富町ビル3F

TEL: 03-3537-1906 (代)

URL: <https://www.medie.jp/solutions/nextant>

Nextant 導入がもたらした効果と今後の運用課題

医療法人鉄蕉会亀田総合病院 医療技術部画像診断室 加藤 義明様

【はじめに】

当院では、体内金属を有する患者さまのMRI検査における安全性向上を目的として、医療機器MR適合性検索システム「Nextant」を導入いたしました。本稿では、導入に至るまでの背景や経緯、得られた効果、そして今後の課題について、現場での経験を基に整理してご紹介いたします。

【背景】

MRI検査における重大なリスクとして「吸着」と「発熱」が挙げられます。特に発熱リスクについては、医師の皆さまの認知度が十分とはいえず、安全性情報の未確認のまま依頼が届くケースも少なくありませんでした。また、金属製医療機器の添付文書は改訂頻度が高く、従来のWeb検索では膨大な情報の中から適切な改訂版を探し当てる必要があり、現場の負担となっておりました。

【Nextant導入の経緯】

医療安全カンファレンスにおいて、体内金属を有する患者さまのMRI検査は高いリスクを伴うことから、技師と医師の双方が安心して判断できる仕組みが必要であるとの結論に至りました。その結果、簡便な検索性、過去改訂版を含む一覧性、そして客観的根拠を医師へ提示できる点が評価され、Nextantの導入が承認されました。

【導入後に得られた主な効果】

- ① 検索効率の大幅な向上
従来は、複数ページを参照しながら目的の添付文書に到達する必要がありましたが、Nextantにより短時間で目的情報にアクセスできるようになりました。
- ② 判断根拠の明確化
条件付きMRI対応機器について「標準モードで撮像可能」といった条件を、明確な記述をもとに医師へ説明できるようになり、現場での認識の不一致が減少いたしました。
- ③ スタッフの理解促進と教育効果
最大空間傾斜磁場など、撮像条件にかかわる専門用語の理解が深まり、若手技師であっても自ら検索・判断できる機会が増えました。
- ④ 貼付剤情報の参照性向上
貼付剤に関するリスク分類が一覧化されており、「剥がす・剥がさない」の判断基準をより明確にご説明できるようになりました。

Nextant[®]

医療機器のMR適合性検索システム

【導入初期に生じた問題や懸念】

① 入退職者管理

今回締結した契約は当法人の全グループ病院に所属する5,000名超の全職員が職種や資格に関わらず使用可能というものでありましたが一介の現場技師が部署を越えて、これら全ての入退職者情報を把握し、アカウント管理を担当することは困難と判断し、導入直後は放射線科所属の医師と画像診断室所属の技師ならびに事務スタッフのみでの運用開始となりました。

② ログイン手順

上記のように限定運用を開始しましたが、当初部署内全ての端末にリンクを設けきれていなかったこともあって、当室スタッフであってもURLを探すのに時間を要したり、パスワードを失念したりと混乱が生じたことから、仮に上記①の問題が解決できたとしても「このままでは他部門のスタッフ、特に最も使用して欲しい医師が使用を避けてしまうのではないか？」との懸念が生じました。

⇒上記2点についてはその後約1年かけて情報システム部や人事部との連携による入退職者一括管理体制の構築を果たし、併せて電子カルテとの認証連携化によりカルテのトップ画面に配したランチャーからワンクリックでアクセス可能となりました。（図1）

また全職員による簡便なアクセス体制が構築できたことで、当院の臨床MR安全運用管理規程においてMR検査をオーダーする際に依頼医にてMR適合性の有無を含めて「体内金属等の有無」を確認し、必要に応じて「リスク説明」と「同意書の取得」し「オーダーにコメントを残す（図2）」旨の改訂（図3）を果たすことができました。

【長期的展望課題】

① 物品管理システムとのデータ連携

物品の入荷から使用記録までがNextantと自動的に紐づくことで、より強固な安全管理体制の構築が期待されます。

② 手術記録システムとの連携

手術で使用されたインプラントの情報が直接Nextantに接続されれば、検索漏れや型番違い・旧版参照などのリスクを大幅に軽減できると考えています。

【まとめ】

Nextantの導入により、安全性確認の確実性と検索効率は大きく向上しました。また導入初期に生じたアカウント管理や電子カルテとの連携といった運用面での課題も解決でき、全職員によるアクセス環境が整っ

たことで、体内金属等の確認を積極的に対応していただける依頼医の裾野も日に日に広がってきていることを実感しております。

今後は「薬剤にDIシステム」が存在するように、MR検査においても「技師だけが金属リスクを確認する」のではなく「依頼医と技師・放射線科医師が金属リスクを二重三重で確認する」体制が標準環境となる時代へと変革が果たせるよう、各種システムとの連携も含めた更なる開発を推進することでより安心・安全で効率的なMRI検査体制の構築につながると期待しております。

図 1 電子カルテログイン画面（赤枠が「Nextant」のランチャー）



図 2 電子カルテ MR オーダー画面 コメント選択要領



